



「樹体ジョイント仕立て」用に植えた苗木の手入れをする坂下さん



神奈川県農業技術センターで樹体ジョイント仕立てを施されたなしの木。坂下さんの園地も数年後には成園化する(写真はイメージ)



津波で流された坂下さんの園地

東日本大震災からの復旧・復興に向けて

被災園地で進む、新たな試み

全てを失ったところから……福島

「日本なし」農家は復興に向けて前進中!

相馬市磯部地区を代表する日本なし農家の坂下耕一さん。東日本大震災による津波で家屋も園地も失い、営農を一度はあきらめたものの、再開を決意。果樹の育成期間を半年以下にする栽培技術も導入し、一日も早い収穫を目指しています。

写真提供/坂下耕一、福島県相馬市農林事務所

農機具からなしの木まで 生産に関わるすべてが津波で流出

「フルーツ王国」とうたわれる福島県では、昼夜の寒暖の差と良質な水を生かし、四季折々の果物が生産されています。なかでも日本なしは「幸水」をはじめ「豊水」「二十

8月下旬から収穫される「幸水」は、糖度の高さのみならず、みずみずしさで人気。もちろん、放射性物質に関する検査を行った後に出荷する



福島県相馬市
坂下果樹園

世紀」「あきづき」「新高」など栽培品種も多く、震災前の平成22年には、全国第3位の収穫量を誇っていました。

相馬市磯部地区に住む日本なし農家の坂下耕一さんも、震災前には、年60t以上の日本なしを出荷していました。

ところが、震災によって265aあった園地のうち、家屋を含む55aが津波で流失。高台にあった残りの園地は難を逃れたものの、自宅だけでなく、農機具や設備が収納されていた納屋も流されました。坂下さんは、当時を振り返り「営農再開は、もう無理だと思いましたね」と話します。

下さんは「新しいことに挑戦しようという気持ちが湧いてきた」といいます。そこで、樹と樹をアーケードのように接ぎ木して仕立てていく栽培技術「樹体ジョイント仕立て栽培」に取り組むことになりました。

仮設住宅で暮らしながら、瓦礫撤去のアルバイトをしていた坂下さんですが、「なし作りを再開して、地域の仲間を元気にしたい」との強い思いから、もう一度、日本なしの栽培に取り組むことを決意。県の事業などを活用することで、同じように被災して園地を失った日本なしの生産者を雇用し、再開のスタートラインに立ったのです。

これは、神奈川県農業技術センターが開発した技術で「普通なら10年かかる苗木の定植から収穫までの期間を4～5年」にでき、省力・低コストにもなる栽培技術です。何より、生産がどんどん加速して、復興の励みになると思ったんです」と坂下さん。

おいしい果物を作って 全国のみなさんに届けたい

平成25年度には、被災園地の一部で栽培を再開できるようなりました。津波で何もなくなった土地に日本なしの苗木を植えることから始めるので、収穫までに何年もかかりますが、坂

さらに、将来は福島県が開発した新品種のおぼどう「あづましずく」を導入し、日本なしとセットで出荷する予定です。

坂下さんは「全国のみなさんの支援のおかげで、ようやくここまで復興できました。私たちが一生懸命作った福島産のおいしい果物をお届けしたいですね」と話してくれました。



坂下さんが栽培を目指す福島県生まれの新品種「あづましずく」

- 2 映画『リトル・フォレスト 夏・秋』
公開記念座談会
“食”と“農”の本質的な繋がりを
多くの人に感じて欲しい
林農水産大臣×映画監督森 淳一さん×
伊勢崎まゆみさん コーディネーター/沼尾ひろ子さん
- 6 東日本大震災からの復旧・復興に向けて
福島県相馬市/坂下果樹園
- 8 特集1
活用しよう! 農地中間管理機構
- 14 チャレンジャーズ トップランナーの軌跡
静岡県 株式会社サングレイス
- 16 特集2
食文化研究家・清 純の
味わい ふれあい 出会い旅
第3回/静岡県御前崎市「ガワ」
- 20 MAFF TOPICS
次世代施設園芸のプロジェクト
日本各地で始動中!
- 23 読者の声/
農林水産省とれたてニュース

表紙: ©FUSAO ONO/SEBUN PHOTO/amanaimages

広報誌『aff(あふ)』について
農林水産業や農山漁村は、食料の安定供給はもちろんのこと、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能の発揮を通じ、国民の皆さまの毎日の生活において重要な役割を担っております。また、農林水産行政は、生産などの現場に密着したものであると同時に、毎日の生活に深く関わっています。農林水産省では『aff』を通じ、農林水産業における先駆的な取り組みや農山漁村の魅力、食卓や消費の現状などを紹介しております。

ホームページのご案内

『aff』は、農林水産省のホームページでもご覧いただけます。
<http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/>



■編集・発行 農林水産省大臣官房総務課広報室
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL.03-3502-8111 (代表) FAX.03-3502-8766
<http://www.maff.go.jp/>

■編集協力 一般社団法人家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船橋原町11
TEL.03-3266-9045 FAX.03-3266-9046
<http://www.ienuhikari.net>

メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週金曜日に発行しております。ぜひご登録ください。無料です。
<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

本誌に掲載した論文などで、意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りします。